



南湖公園ワークショップ



「将来像・・・楽翁公のころを未来へ！」

平成20年2月26日（火）に第3回南湖公園ワークショップが開催されました。

今年度のワークショップは、県南地域の貴重な財産である南湖公園の保全・利活用を図るため開催してきたこれまでのワークショップを受け、南湖への理解をより深めるための検討会（勉強会）を中心に開催してきました。今回は全員で33名の方々の参加がありました。

はじめに

南湖を良好な状態で後世に継承していくためには、これまでのワークショップで提案してきたことを、いかに実行し実現していくかが課題となります。そのためには、まず市民と行政が南湖への理解を深め、共通の認識を持って、南湖の保全・利活用に取り組むことが重要です。

第3回南湖公園ワークショップ・プログラム

- とき 平成20年2月26日（火）13:30～16:00
- ところ 翠楽苑
- 1 開会
挨拶（県南建設事務所企画調査グループ課長 円谷 泰）
- 2 ワークショップ
 - (1) 史跡名勝南湖公園第2次保存管理計画の概要について
（白河市教育委員会文化課 主任主査兼文化財保護係長 井上健一 主査 田代剛巳）
 - (2) 講演「南湖公園の水生昆虫について」
（福島県農業総合センター 主任研究員 農学博士 三田村敏正）
 - (3) 千世の堤の護岸修繕計画について
（県南建設事務所河川砂防グループ 副主査 大橋一興）
 - (4) 市民ネットワークに関する意見交換
定信公生誕250周年を祝う「南湖祭」の開催について
（南湖祭実行委員会 瀬戸安夫）
- 3 閉会
挨拶（白河市建設部都市計画課 課長補佐兼公園係長 薄葉正雄）



南湖ワークショップの様子

【市民ネットワークに関する意見交換】

南湖祭（案）

- 1 開催日時：11月1日（土）10時～15時
- 2 メイン会場：芝生広場
- 3 実行委員会の構成：南湖に関係する市民団体
- 4 メインテーマ：定信公のころを未来へ！
- 5 集客方法：関係する既存の団体出し物（内容）& 鳴り物（和太鼓・よさこい踊り）& クイズ形式のオリエンテーリング& スタンプラリー（案）
- 6 タイムスケジュール：当日の時間別催し案内を作成。
- 7 南湖再発見オリエンテーリング：タイム競争はしない。参加者には記念品（抽選）
- 8 交通事故を防止するため、各団体より交通誘導員を配置。
- 9 予算（最小軽費で最大効果）：フリーマーケット収益の活用

南湖祭の提案についての説明



南湖祭実行委員会
による説明

●「私の願いを込めた理想の南湖像」

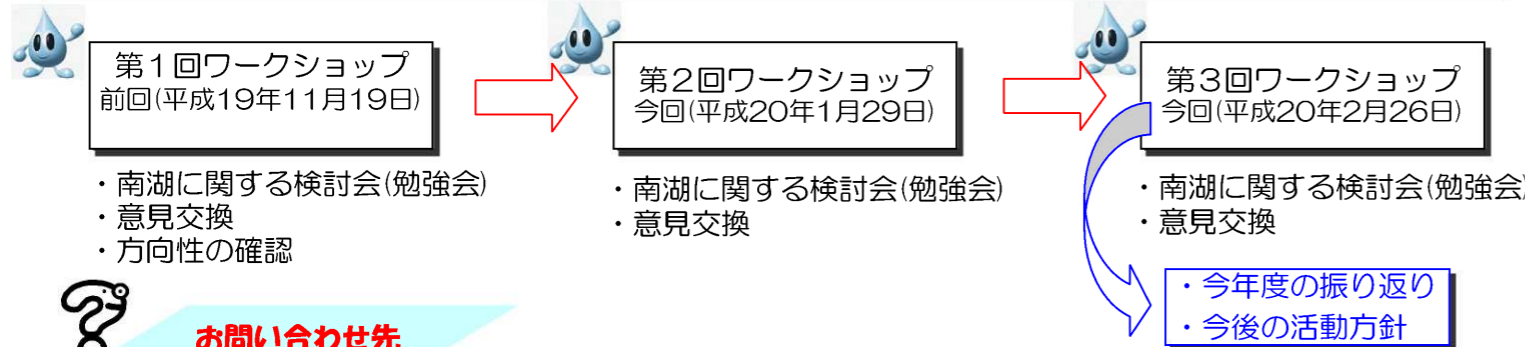


白河市都市計画課長補佐兼
公園係長 薄葉正雄



南湖公園は、赤松を中心に楓、山桜、湖の周辺には萩、ヨシ、マコモが茂り、流れにバイカモ、水中にはイバラモが湖底に根を張る。初夏になると、ジュンサイは収穫時期をむかえが、市民の力で復活したものであり、守ろうとの気持ちが伝わり、誰一人採るものもない。南側の湖畔湿地帯には、絶滅危惧種トウゴクヘラオモダカが群生する。西側の湖内には、緩やかな斜面を回復させ、湿地がよみがえりつつある。埋土種子で発芽したサギソウ、ミツガシワやサワランが咲く。「南湖コウホネ」は、5株ほどだったものが今では30株に増え、約100個の花が咲いている。コウホネにイトトンボが羽を休めている。準絶滅危惧種のチョウトンボも行きかっている。松虫の原の湿地では、観察会が開催され参加者は熱心にメモをとる。南湖の流入部は、下水道の普及が功を奏してすばらしくきれいな水が流れている。市民ボランティアによる清掃が行われ、管理が定着してしている。常葉清水付近では、清水を利用して埋土種子からの試験栽培が行われ、栽培したものを復元のため移植している。鏡の山では、市民が力を合わせた下刈りも軌道に乗り、赤松に良い環境が整ってきた。松くい虫の発生が少なくなってきた。高校のクラブでは植物による水浄化のメカニズムやプランクトンの働きの研究を行っている。ヒシ、ヨシ、マコモなどを堆肥化して南湖の水を利用した水田で稲作研究をしている。冬には、環境団体が野鳥観察会を定期的開催し、湖から森林公園をめぐり案内している。南湖は、さまざまな催しで、冬季でも人々が絶えることがない。

●今年度の活動について



お問い合わせ先

福島県県南建設事務所 企画調査グループ
住所／〒961-0971 白河市昭和町269番地
TEL／0248-23-1617
FAX／0248-23-1642